

人類生態学教室年報

2013-2014

Biannual Report of the Department of Human Ecology

2015年6月

東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻

人類生態学教室

Department of Human Ecology, School of International Health,
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

目次 Contents

教育活動 (Educational Activities)		1
学部		
講義	Lectures	
実習	Exercises / Practices	
原書購読	Paper Reading	
大学院		
講義	Lectures and Exercises / Practices	
論文		
卒業論文	Graduation Theses	
修士論文	Master's Theses	
博士論文	Doctoral Dissertations	
研究実績 (Research Activities)		17
原著論文	Original Articles	
単行本	Books and Book Chapters	
総説・資料・他	Reviews, Reports, Essays etc.	
学会発表	Presentations in Scientific Meetings	
受賞	Awards	
競争的資金の獲得 (Research Funds) (代表および分担)		33
政府系競争資金 National Research Funds		
その他の研究助成金 Other Research Funds		
人類生態学研究会 (Meetings on Human Ecology)		35
教室員一覧 (Department Members)		36

教育活動 Educational Activities

□学部

■講義

【薬理・毒性学】（必修—3年前期Ⅰ：2単位）

2013年4月—5月

火曜日：8:40-12:00

2013年

- | | |
|-------|---|
| 4月9日 | 薬理・毒性学の基本
遠山千春（疾患生命工学センター） |
| 4月16日 | 自律神経および循環薬理学
飯野正光（薬理Ⅰ） |
| 4月23日 | 薬物動態学の基礎（薬物速度論・薬物間相互作用）
鈴木 洋史（薬剤部），高田 龍平（薬剤部） |
| 4月30日 | 薬のライフサイクルと調査研究
久保田 潔（薬剤疫学），大津 洋（22世紀医療センター・臨床試験データ管理学講座） |
| 5月7日 | 毒性発現／薬害と公害
渡辺知保（人類生態学） |
| 5月14日 | 循環器・生活習慣病領域の臨床試験およびゲノム解析について
山崎 力（臨床研究支援センター）
森田 啓行（22世紀医療センター・健康医科学創造講座） |
| 5月21日 | 化学療法（抗生物質・抗腫瘍薬）、中枢神経の薬理学
北 潔（生物医科学）
掛山 正心（疾患生命工学センター） |

2014年4月—5月

火曜日：8:40-12:00

2014年

- | | |
|-------|--|
| 4月8日 | 薬理・毒性学の基本
遠山 千春（疾患生命工学センター） |
| 4月15日 | 自律神経および循環薬理学
飯野 正光（薬理Ⅰ） |
| 4月22日 | 薬物動態学の基礎（薬物速度論・薬物間相互作用）
鈴木 洋史（薬剤部），高田 龍平（薬剤部） |

- 4月28日 毒性発現/薬害と公害
渡辺知保（人類生態学）
- 5月13日 循環器・生活習慣病領域の臨床試験およびゲノム解析について
循環器・生活習慣病領域のファーマコゲノミクス（薬理ゲノム学）
山崎 力（臨床研究支援センター）・森田 啓行（22世紀医療センター・健康医科学創造講座）
- 5月20日 化学療法（抗生物質・抗腫瘍薬）、中枢神経の薬理学
北 潔（生物医科学）
掛山 正心（疾患生命工学センター）
- 5月27日 薬のライフサイクルと調査研究
小出 大介（臨床疫学システム講座）
大津 洋（22世紀医療センター・臨床試験データ管理学講座）

【環境工学・人間工学】（選択—4年前期Ⅰ：2単位）

2013年4月—5月

木曜日：8:40-12:00

2013年

- 4月11日 水中の病原微生物と上下水道
片山 浩之（水環境制御研究室）
- 4月18日 生物・ヒトの生存戦略と未来環境
磯山 隆（医用生体工学）
- 4月25日 ナノバイオテクノロジーを基盤とする医療イノベーション
宮田 完二郎（疾患生命工学センター臨床医工学部門）
- 5月2日 環境工学におけるリスク管理
福士 謙介（サステイナビリティ学連携研究機構）
- 5月9日 Ecological Momentary Assessment の臨床応用
吉内 一浩（ストレス防御・心身医学/心療内科）
- 5月16日 空間解析と空間心理工学
浅見 泰司（空間情報科学研究センター）

2014年4月-5月

木曜日：8:40-12:00

2014年

- | | |
|-------|--|
| 4月17日 | 空間解析と空間心理工学
浅見 泰司（空間情報科学研究センター） |
| 4月24日 | 生物・ヒトの生存戦略と未来環境
磯山 隆（医用生体工学） |
| 5月1日 | 生物・ヒトの生存戦略と未来環境
磯山 隆（医用生体工学） |
| 5月8日 | Ecological Momentary Assessment の臨床応用
吉内 一浩（ストレス防御・心身医学/心療内科） |
| 5月15日 | 環境工学におけるリスク管理
福士 謙介（サステイナビリティ学連携研究機構） |
| 5月22日 | 薬を届け、病気を治すナノマシンの開発
宮田 完二郎（疾患生命工学センター臨床医工学部門） |

【環境保健学】（選択-3年後期Ⅰ：2単位）

2013年10月-11月

金曜日：8:40-12:00

2013年

- | | |
|--------|--|
| 10月18日 | 環境保健学総論
渡辺 知保（人類生態学） |
| 10月25日 | 地球環境問題と健康
橋爪 真弘（長崎大学 熱帯医学研究所） |
| 11月1日 | 職場環境における化学物質による中毒とその予防について
吉田 稔（八戸大学） |
| 11月8日 | 環境有害化学物質の毒性発現メカニズムと健康リスク評価
大迫 誠一郎（疾患生命工学センター） |
| 11月22日 | 大気汚染とその健康影響
新田 裕史（国立環境研究所） |
| 11月29日 | 環境リスクアセスメント論/疾病適応論・マラリアを題材にして
中澤 港（神戸大学） |

2014年10月-12月

金曜日：8:40-12:00

2014年

10月17日	環境保健学総論 渡辺 知保 (人類生態学)
10月24日	環境有害化学物質の毒性発現メカニズムと健康リスク 評価 大迫誠一郎 (疾患生命工学センター)
10月31日	職場環境における化学物質による中毒とその予防に ついて 吉田 稔 (八戸大学)
11月7日	大気汚染とその健康影響 新田 裕史 (国立環境研究所)
11月14日	環境保健学—興味深いが厄介な問題— 渡辺 知保 (人類生態学)
11月28日	環境リスクアセスメント論/疾病適応論・マラリアを題材 にして 中澤 港 (神戸大学)
12月5日	地球環境問題と健康 橋爪 真弘 (長崎大学 熱帯医学研究所)

【生理学】 (必修—2年後期Ⅱ：2単位)

2013年11月-2014年2月 担当：佐々木 誠一 (茨城県立医療大学)

月曜日：13:00-16:20

2013年

11月28日	生理学の基礎, 呼吸
12月5日	血液と循環
12月12日	消化と吸収, 腎臓の機能
12月19日	内分泌, 生殖

2014年

1月16日	神経, シナプスと筋
1月30日	神経系, 感覚
2月4日	血圧測定と心電図記録に関する実習

2014年11月—2015年2月 担当：佐々木 誠一（茨城県立医療大学）
月曜日：13:00-16:20

2014年

12月1日 生理学の基礎，呼吸
12月8日 血液と循環
12月15日 消化と吸収，腎臓の機能

2015年

1月5日 内分泌，生殖
1月19日 神経，シナプスと筋
1月26日 神経系，感覚
2月2日 血圧測定と心電図記録に関する実習

【人類生態学】（必修—3年前期Ⅱ：2単位）

2013年6月—7月

担当：渡辺知保，梅崎昌裕，田所聖志，安本晋也，古澤華，小西祥子

火曜日：8:40-12:00

2013年

6月11日 人類の進化，生存様式の多様化（梅崎）
6月18日 適応手段としての化学物質（渡辺）
6月25日 都市の生態学／サステナビリティと健康（渡辺）
7月2日 栄養の生態学的理解（梅崎）
7月9日 化学物質にヒトは適応するか（古澤）
生物学的人口学（小西）
ニューギニア人の元気の素（田所）
環境問題健康問題とGIS（安本）
7月16日 行動と活動の把握と生態学（梅崎）

2014年6月—7月 担当：渡辺知保，梅崎昌裕，安本晋也，井上陽介，古澤華

火曜日：8:40-12:00

2014年

6月10日 人類の進化，生存様式の多様化（梅崎）
6月17日 栄養の生態学的理解（梅崎）
6月24日 行動と活動の把握と生態学（梅崎）
7月1日 GISの健康科学への貢献（安本）
都市の生態学（渡辺）

- 7月8日 移民の健康と文化（井上）
アジア農村にみる健康科学（古澤）
- 7月15日 適応手段としての化学物質／サステナビリティと健康（渡辺）

【医療人類学】（選択—3年前期Ⅰ・Ⅱ：2単位）

2013年4月—7月 担当：梅崎昌裕，田所聖志，卯田宗平

金曜日：16:40-18:10

2013年

- 4月19日 オリエンテーション・授業のすすめかた・スケジュール・
講義の趣旨説明：「医療」の人類学を学ぶ意義
- 4月26日 概念を定義してケースを読み解く ①信念 (belief)
- 5月10日 「信念」という概念をつかってケースを読み解く
- 5月24日 概念を定義してケースを読み解く ②身体観
- 5月31日 「身体観」という概念をつかってケースを読み解く
- 6月7日 概念を定義してケースを読み解く ③文化相対主義
- 6月21日 「文化相対主義」という概念をつかってケースを読み解く
- 7月5日 概念を定義してケースを読み解く ④リスク
- 7月12日 概念を定義してケースを読み解く
⑤説明モデル ⑥Actor-based method
- 7月19日 概念を定義してケースを読み解く ⑦リーダーシップ論
- 7月22日—23日 フィールド実習
東京大学秩父演習林周辺の集落

2014年4月—7月 担当：梅崎昌裕，田所聖志，卯田宗平

金曜日：16:40-18:10

2014年

- 4月25日 オリエンテーション
- 5月2日 概念をつかってケースを読み解く：信念・身体観
- 5月16日 発表：身体観は健康行動・医療行動にどのように影響しているか
- 5月23日 概念をつかってケースを読み解く：文化相対主義
- 5月30日 文化相対主義：発表
- 6月6日 概念を提示してケースを読み解く：リスク (risk)
- 6月20日 課題の発表：リスク
- 6月27日 概念を規定してケースを読み解く：正義論

7月4日 さまざまな「正義」のありかた

7月11日 むすんで・ひらいて

7月28-29日 フィールド実習

場所：神奈川県三崎半島周辺

【人口学】（選択—3年後期Ⅱ：1単位）

2013年12月—2014年1月

担当：梅崎昌裕，小西祥子，末吉秀二（吉備国際大学社会学部），中澤 港（群馬大学医学部）

月曜日：16：40-18：10

2013年

12月2日 講義と課題の説明 形式人口学の紹介

日本の人口問題にかかわる課題の検討（梅崎）

12月9日 形式人口学の演習 人口推計にかかわる発表（梅崎）

12月16日 講義と実習：課題の説明 死因別死亡率の標準化、地理的分布、季節性などの分析（小西）

2014年

1月17日 発表および補足講義（小西）

1月20日 講義：アラブ社会の人口学，都市近郊農村の人口分析（末吉）

1月21日 数理人口学 人口モデルの適用（中澤）

1月27日 講義と討論：まとめ 個体群生態学、少子高齢化、国際人口移動、人口爆発、過疎化など（梅崎）

2014年12月—2015年1月

担当：梅崎昌裕，小西祥子，末吉秀二（吉備国際大学社会学部），中澤 港（神戸大学大学院国際協力研究科）

月曜日：16：40-18：10

2014年

12月8日 イントロダクション・形式人口学・日本の人口問題の紹介（梅崎）

12月15日 発表と演習：形式人口学の演習 日本の人口問題にかかわる課題検討（梅崎）

2015年

1月5日 日本の人口問題，冬休みの成果発表（梅崎）

1月19日 講義：アラブ社会の人口学，都市近郊農村の人口分析（末吉）

1月26日 出生の生物人口学（小西）

1月30日 人口学の数理モデル（中澤）

■実習

2013年6月

環境保健学実習（選択—4年前期Ⅱ：2単位）

2014年6月

環境保健学実習（選択—4年前期Ⅱ：2単位）

2013年10月

保健学実験・検査法実習：「環境化学」（必修—3年前期Ⅲ：3単位）

2014年10月

保健学実験・検査法実習：「環境化学」（必修—3年前期Ⅲ：3単位）

■原書購読

2013年

該当なし

2014年

梅崎昌裕，小西祥子

Hawk A. The great disease enemy, kak'ke (beriberi) and the Imperial Japanese Army. *Military Medicine*. 2006;171,4:333

Miller BC, Sneesby KR. Educational correlates of adolescents' sexual attitudes and behavior. *Journal of Youth and Adolescence*, 1988;17:521-530.

Ostro BD, Feng W-Y, Broadwin R, Malig BJ, Green RS, Lipsett MJ. The impact of components of fine particulate matter on cardiovascular mortality in susceptible subpopulations. *Occupational & Environmental Medicine*, 2008;65:750-756.

Stanford JL, Herrinton LJ, Schwartz SM, Weiss NS. Breast cancer incidence in Asian migrants to the United States and their descendants. *Epidemiology*, 1995;6:181-183.

Uda S. The behavior of fishers after implementation of the project to exterminate nonindigenous fish in Lake Biwa, Japan. *Human Ecology*, 2010;38:237-249.

□大学院

■講義

[Basic Tools Population/Public Health Research]

April to July, 2013, Part I and III: Monday 10:30-12:00, Part II: 9:00-12:00

Part I. Study Design and Methods

- | | |
|----------|--|
| 15 April | Research Questions and the Phenomena to Which They Refer
(i.e., issues of internal and external validity)
J. Green |
| 22 April | General and Specific Questions
J. Green |
| 13 May | Measurement: Precision and Accuracy, Types of Variables
J. Green |
| 20 May | Cohort and Case-Control Designs
J. Green |
| 27 May | Confounding
J. Green |

Part II. Writing and Publishing Public Health Research

- | | |
|--------|--|
| June 4 | The Architecture and Narrative Pathways of Scientific
Manuscripts
D. Halstead (Harvard University) |
| June 5 | Principles for Writing English Clearly and Concisely
D. Halstead (Harvard University) |
| June 6 | Strategies for Getting Research Published in International
Peer Reviewed Journals
D. Halstead (Harvard University) |

Part III. Introduction to Medical Statistics

- | | |
|---------|--|
| 3 June | Hypothesis Testing, Assessment of Association in
Contingency Tables
CFS Ng (National Institute of Environmental Studies) |
| 10 June | Analysis of Variance
CFS Ng (National Institute of Environmental Studies) |
| 17 June | Linear Regression
CFS Ng (National Institute of Environmental Studies) |

24 June	Correlation CFS Ng (National Institute of Environmental Studies)
1 July	Regression Models for Binary and Count Response Data, Sample Size Consideration CFS Ng (National Institute of Environmental Studies)

[Basic Tools Population/Public Health Research]

May to June, 2014, Part I: 9:00-12:00, Part II: Monday 9:00-10:30, Part III: Monday 10:35-12:05

Part I. Writing in Public Health Research (May 13-15)

T. Lang (Communications and Training International)

Part II. Introduction to Medical Statistics (May 12 – June 9)

May 12 Hypothesis Testing, Assessment of Association in
Contingency Tables

CFS. Ng

May 19 Analysis of Variance

CFS. Ng

May 26 Linear Regression, Correlation

CFS. Ng

June 9 Regression Models for Binary and Count Response Data,
Sample Size Consideration

CFS. Ng

Part III. Research Methods and Study Design

May 12 Research questions and the phenomena to which they refer
J. Green

May 19 General and specific questions
J. Green

May 26 Measurement: precision and accuracy, types of variables
J. Green

June 9 Cohort and case-control designs, Confounding
J. Green

[Human Ecology I (人類生態学特論 I)]

May to June, 2013, Friday Period 1 & 2

May 10 Ecology and Human Ecology

	C. Watanabe
May 17	Methods for Nutritional Survey, Methods for Demographic Survey
	M. Umezaki
May 24	Human Ecology in International Health
	K. Moji (Research Institute for Humanity and Nature)
May 31	Methods in Environmental Health
	C. Watanabe
June 7	Human Ecology of Urban Populations
	C. Watanabe
June 21	Methods for Behavioral Survey
	M. Umezaki

[Human Ecology I (人類生態学特論 I)]

May to June, 2014, Friday Period 1 & 2

May 9	Human Ecology in International Health
	K. Moji (Research Institute for Humanity and Nature)
May 16	Ecology and Human Ecology, Ecology of diseases
	C. Watanabe
May 23	Methods for Nutritional Survey, Methods for Demographic Survey
	M. Umezaki
May 30	Methods for Behavioral Survey
	M. Umezaki
June 6	Methods in Environmental Health
	C. Watanabe
June 20	Human Ecology of Urban Populations
	C. Watanabe
June 27	Sustainability and Health
	C. Watanabe

[Human Ecology II (人類生態学特論 II)]

October to December, 2013, Wednesday 10:00-16:00

October 23	Human-Chimpanzee interfaces in the West African landscape: Evolution, zoonosis, and conservation [lecture]
	G. Yamakoshi (Kyoto University)

- November 13 Heavy metals in our environment --- Exposure, health risk and source apportionment [lecture]
J. Yoshinaga (Graduate School of Frontier Sciences)
- December 4 Environmental Contaminants and Children's Health [reading assignment]
S. Himeno (Tokushima Bunri University)
- December 11 Modernization and Health [reading assignment]
T. Inaoka (Saga University)

[Human Ecology II (人類生態学特論 II)]

November to December, 2014, Wednesday 10:00-16:00

- November 12 Heavy metals in our environment --- Exposure, health risk and source apportionment [lecture]
(13:00-18:00) J. Yoshinaga (Graduate School of Frontier Sciences)
- November 19 Introduction to science of population and life-cycle [lecture]
R. Kaneko (National Institute of Population and Social Security Research)
- November 26 Environmental Contaminants and Children's Health [reading assignment]
S. Himeno (Tokushima Bunri University)
- December 10 Human-Chimpanzee interfaces in the West African landscape: Evolution, zoonosis, and conservation [lecture]
G. Yamakoshi (Kyoto University)

[The Urban Environment and Health: An Introduction]

October to November, 2013, Monday/Wednesday 10:00-12:00

- October 16 The Urban Environment in the Developed and Developing World and its Importance for Human Health
S. Konishi, E. Tamaki (Ritsumeikan University)
- October 30 Food and Water – Supply, Quality, Safety and Sustainability in an Urban Environment
K. Fukushi
- November 6 Urban Migration and Health
Y. Inoue
- November 11 Communicable Disease and the Built Environment
A. Stickley

- November 18 Urbanization and Non-Communicable Disease
 A. Stickley
- November 20 Studying the Effect of the Urban Environment on Health:
 GIS and Other Research Methods
 S. Yasumoto; I. Yamada (Chuo University)
- November 27 Healthy Cities in the Twenty-First Century
 K. Nakamura (Tokyo Medical and Dental University)

[The Urban Environment and Health in Asia]

April to May, 2013, Wednesday 16:40-18:10

- April 10 Introduction, Urban Health and Leadership
 C. Watanabe
 S. Takizawa, K. Hanaki (Department of Urban
 Engineering)
- April 17 Urban Water and Health
 M. Jimba (School of International Health)
 S. Takizawa (Department of Urban Engineering)
- April 24 Urban Water and Health
 M. Jimba (School of International Health)
 S. Takizawa (Department of Urban Engineering)
- May 8 Urban Air pollution, Solid Waste Health
 Y. Moriguchi (Department of Urban Engineering)
- May 15 Urban Air pollution, Solid Waste Health
 C. Watanabe
 Y. Moriguchi (Department of Urban Engineering)
- May 22 Urban Habitat and Health
 J. Yasuoka (School of International Health)
 T. Kidokoro (Department of Urban Engineering)
- May 29 Urban Habitat and Health
 J. Yasuoka, S. Yasumoto (School of International Health)
 T. Kidokoro (Department of Urban Engineering)

[The Urban Environment and Health in Asia]

April to May, 2014, Wednesday 16:40-20:10

- April 9 Introduction, Urban Health and Leadership
 C. Watanabe

	S. Takizawa, K. Hanaki (Department of Urban Engineering)
April 16	Urban Water and Health M. Jimba (School of International Health) S. Takizawa (Department of Urban Engineering)
April 23	Urban Water and Health M. Jimba S. Takizawa
April 30	Urban Air pollution, Solid Waste Health Y. Moriguchi (Department of Urban Engineering)
May 7	Urban Air pollution, Solid Waste Health C. Watanabe Y. Moriguchi
May 14	Urban Habitat and Health J. Yasuoka (School of International Health) T. Kidokoro (Department of Urban Engineering)
May 21	Urban Habitat and Health J. Yasuoka, S. Yasumoto T. Kidokoro

□論文

■卒業論文 **Graduation Theses**

2013 年度

該当なし

2014 年度

佐方奏夜子 福岡市における黄砂および浮遊粒子状物質と花粉症受診者数との関連

高橋優香子 太平洋戦争期の旧日本陸軍兵士食物摂取と身体活動に関する研究

三本恭也 生活環境質の評価指標と人口・健康属性との関連
ー日本の市区町村データの分析ー

山下結花 視覚障害を持つ女性の化粧行動に関する研究

■修士論文 **Master's Theses**

2013 年度

Ayesha Kabir 亜熱帯都市ダッカにおける温度と喘息来院者数との関係
The association between temperature and hospital visits for asthma in
a subtropical city, Dhaka

Mumtaz Begum パキスタンのチトラル地方に居住する 6-24 カ月児の腸透過性と成長遅滞
Intestinal permeability and growth faltering of 6-24-month-old
children in Chitral district, Pakistan

2014 年度

浜松由莉 都市近郊における買い物環境と高齢者の栄養摂取の関係：
木更津市を事例として
The association between the neighborhood food environment and
dietary intake among elderly people in a metropolitan suburb: a case
study in Kisarazu, Japan

Jennifer Tokiko Fillman ネパールテライ地方におけるヒ素およびカドミウム曝露が
思春期学童の唾液中テロメア長と認知機能に与える影響
Effects of arsenic and cadmium exposure on salivary telomere
length and cognitive function in adolescents in Terai, Nepal

陳 少明 中国海南島における手足口病重症化のリスクファクター
Risk factors of Severe Hand, Foot, Mouth Disease in Hainan Island,
China

■博士論文 **Doctoral Dissertations**

2013 年度

該当なし

2014 年度

井上陽介 中国海南省農村部コミュニティにおける経済発展と C 反応性タンパク質濃度に関する研究

The association between economic development, lifestyle differentiation and C-reactive protein concentrations within rural communities in Hainan Island, China

Saira Tasmin ダッカにおける大気中粒子状物質及び気温への短期曝露が就学児童の肺機能に及ぼす影響

Effects of short-term exposure to ambient particulate matter and temperature on lung function of school children in Dhaka, Bangladesh

研究業績 **Research Activities**

原著論文 **Original Articles**

Bagrowicz R, Umezaki M, Watanabe C (2013) Is Obesity Contagious by Way of Body Image? A Study on Japanese Female Students in the United States. *Journal of Community Health* 38:834-837.

Chen S, Du J, Jin Y, Qiu L, Du Z, Li D, Chen H, Watanabe C, Umezaki M. Risk factors for severe hand-foot-mouth disease in children in Hainan, China, 2011–2012. *Asia-Pacific Journal of Public Health* (in press).

Goto D, Dai T, Satoh M, Tomita H, Uchida J, Misawa S, Inoue T, Tsuruta H, Ueda K, Ng CFS, Takami A, Sugimoto N, Shimizu A, Ohara T, Nakajima T (2015) Application of a global nonhydrostatic model with a stretched-grid system to regional aerosol simulations around Japan. *Geoscientific Model Development* 8:235-259.

Greenhill A, Tsuji H, Ogata K, Natsuhara K, Morita A, Soli K, Larkins J, Tadokoro K, Odani S, Baba J, Naito Y, Tomitsuka E, Nomoto K, Siba P, Horwood P, Umezaki M (2015) Characterization of the gut microbiota of Papua New Guineans using reverse transcription quantitative PCR. *PLOS ONE* DOI: 10.1371/journal.pone.0117427.

Hamamatsu Y, Inoue Y, Watanabe C, Umezaki M (2014) Impact of the 2011 earthquake on marriage, births and the secondary sex ratio in Japan. *Journal of Biosocial Science* 46:830-841.

Hamamatsu Y, Watanabe C, Umezaki M (2015) Secondary sex ratio and marriage after the disaster: a reply to O'Donnell and Behie. *Journal of Biosocial Science* 47:417-420.

Honda A, Watanabe C, Yoshida M, Nagase H, Satoh M (2013) Microarray analysis of neonatal brain exposed to cadmium during gestation and lactation. *Journal of Toxicological Science* 38:151-153.

Horwood P, Karl S, Mueller I, Jonduo M, Pavlin B, Dagina R, Ropa B, Bieb S, Rosewell A, Umezaki M, Siba P, Greenhill A (2014) Spatio-temporal epidemiology of the cholera outbreak in Papua New Guinea, 2009-2011. *BMC Infectious Diseases* 14:449.

- Hoshikawa K, Umezaki M (2014) Effect of terrain-induced shade removal using global DEM datasets on land-cover classification. *International Journal of Remote Sensing* 35:1331-1355.
- Inoue Y, Umezaki M, Jiang H, Li D, Du J, Jin Y, Yang B, Li B, Li Y, Watanabe C (2014) Urinary Concentrations of Toxic and Essential Trace Elements among Rural Residents in Hainan Island, China. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 11:13047-13064.
- Inoue Y, Umezaki M, Watanabe C (2013) Geographic Clustering of the Secondary Sex Ratio in Japan: Association with Demographic Attributes. *Journal of Biosocial Science* 45:279-284.
- Inoue Y, Yazawa A, Li D, Du J, Jin Y, Chen Y, Watanabe C, Umezaki M (2014) Epstein-Barr virus titer and its association with the domain scores from the World Health Organization's Quality of Life Questionnaire: Findings from rural Hainan province, China. *American Journal of Human Biology* 26:51-55.
- Jukkala T, Mäkinen IH, Stickley A (2015) The historical development of suicide mortality in Russia, 1870-2007. *Archives of Suicide Research* 19:117-130.
- Konishi S, Ng CFS, Stickley A, Nishihata S, Shinsugi C, Ueda K, Takami A, Watanabe C (2014) Particulate matter modifies the association between airborne pollen and daily medical consultations for pollinosis in Tokyo. *Science of the Total Environment* 499:125-132.
- Konishi S, Nishihama Y, Iida A, Yoshinaga J, Imai H (2014) The association of antimüllerian hormone levels with menstrual cycle type and dysmenorrhea in young asymptomatic women. *Fertility and Sterility* 102:1439-1443.
- Konishi S, Parajuli RP, Takane E, Maharjan M, Tachibana K, Jiang HW, Pahari K, Inoue Y, Umezaki M, Watanabe C (2014) Significant sex difference in the association between C-reactive protein concentration and anthropometry among 13- to 19-year olds, but not 6- to 12-year olds in Nepal. *American Journal of Physical Anthropology* 154:42-51.
- Kosaka S, Umezaki M, Ishikawa M, Watanabe C (2014) Physical activity and the neighborhood environment in a heavy snowfall area in Japan: The role of "Gangi-dori". *Landscape and Urban Planning* 123:124-133.

- Koyanagi A, Stickley A, Garin N, Miret M, Ayuso-Mateos JL, Leonardi M, Koskinen S, Galas A, Haro JM (2015) The association between obesity and back pain in nine countries: a cross-sectional study. *BMC Public Health* 15:123.
- Leinsalu M, Stickley A, Kunst AE (2015) Reduced affordability of cigarettes and socio-economic inequalities in smoking continuation in Stakhanov, Ukraine, 2009. *European Journal of Public Health* 25:216-218.
- Morita A, Natsuhara K, Tomitsuka E, Odani S, Baba J, Tadokoro K, Igai K, Greenhill A, Horwood P, Soli K, Phuanukoonnon S, Siba P, Umezaki M (2015) Development, validation, and use of a semi-quantitative food frequency questionnaire for assessing protein intake in Papua New Guinean Highlanders. *American Journal of Human Biology* 27:2349-2357.
- Murphy A, Roberts B, Ploubidis GB, Stickley A, McKee M (2014) Using multi-level data to estimate the effect of an 'alcoegenic' environment on hazardous alcohol consumption in the former Soviet Union. *Health & Place* 27:205-211.
- Nahar MN, Inaoka T, Fujimura M, Watanabe C, Shimizu H, Tasmin S, Sultana N (2014) Arsenic contamination in groundwater and its effects on adolescent intelligence and social competence in Bangladesh with special reference to daily drinking/cooking water intake. *Environmental Health and Preventive Medicine* 19:151-158.
- Nakamura M, Hachiya N, Murata K, Nakanishi I, Kondo T, Yasutake A, Miyamoto K, Ser PH, Omi S, Furusawa H, Watanabe C, Usuki F, Sakamoto M (2014) Methylmercury exposure and neurological outcomes in Taiji residents accustomed to consuming whale meat. *Environment International* 68:25-32.
- Nakayama R, Koyanagi A, Stickley A, Kondo T, Gilmour S, Arenliu A, Shibuya K (2014) Social networks and mental health in post-conflict Mitrovica, Kosova. *BMC Public Health* 14:1169.
- Ng CFS, Matsuyama Y, Ohashi Y. Case-only method to estimate the relative incidence of adverse events for comparison of two treatments: application in disseminated intravascular coagulation patients. *Japanese Journal of Biometrics* (in press).
- Ng CFS, Ueda K, Takeuchi A, Nitta H, Konishi S, Bagrowicz R, Watanabe C (2014) Socio-geographic variation in the effects of heat and cold temperature on daily

mortality in Japan. *Journal of Epidemiology* 24:15-24.

- Parajuli RP, Fujiwara T, Umezaki M, Furusawa H, Watanabe C (2014) Home environment and prenatal exposure to lead, arsenic and zinc on the neurodevelopment of six-month-old infants living in Chitwan Valley, Nepal. *Neurotoxicology and Teratology* 41:89-95.
- Parajuli RP, Fujiwara T, Umezaki M, Konishi S, Takane E, Maharjan M, Tachibana K, Jiang HW, Pahari K, Watanabe C (2014) Prevalence and risk factors of Soil-transmitted helminth (STH) infection in Nepal. *Transactions of the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene* 108:228-236.
- Parajuli RP, Fujiwara T, Umezaki M, Watanabe C (2013) Association of Cord Blood Levels of Lead, Arsenic, and Zinc with Neurodevelopmental Indicators in Newborns: A Birth Cohort Study in Chitwan Valley, Nepal. *Environmental Research* 121:45-51.
- Parajuli RP, Fujiwara T, Umezaki M, Watanabe C (2014) Impact of caste on the neurodevelopment of young children from birth to 36 months of age: A birth cohort study in Chitwan Valley, Nepal. *BMC Pediatrics* 14: 56.
- Parajuli RP, Fujiwara T, Umezaki M, Watanabe C (2015) Home Environment and Cord Blood Levels of Lead, Arsenic, and Zinc on Neurodevelopment of 24 months Children Living in Chitwan valley, Nepal. *Journal of Trace Elements in Medicine and Biology* 41:89-95.
- Parajuli RP, Umezaki M, Fujiwara T, Watanabe C (2015) Association of cord blood levels of lead, arsenic, and zinc and home environment with neurodevelopmental indicators of 36 months children living in Chitwan valley, Nepal. *PLOS ONE* DOI: 10.1371/journal.pone.0120992.
- Sakamoto M, Yasutake A, Kakita A, Ryufuku M, Chan HM, Yamamoto M, Oumi S, Kobayashi S, Watanabe C (2013) Selenomethionine Protects against Neuronal Degeneration by Methylmercury in the Developing Rat Cerebrum. *Environmental Science and Technology* 47:2862-8.
- Ser PH, Banu B, Jebunnesa F, Fatema K, Rosy N, Yasmin R, Furusawa H, Ali L, Ahmad SA, Watanabe C (2015) Arsenic exposure increases maternal but not cord serum IgG in Bangladesh. *Pediatrics International* 57:119-125.

- Shinsugi C, Stickley A, Konishi S, Ng CFS, Watanabe C (2015) Seasonality of child and adolescent injury mortality in Japan, 2000-2010. *Environmental Health and Preventive Medicine* 20:36-43.
- Soli K, Maure T, Kas M, Bande G, Bebes S, Luang-Suarkia D, Siba P, Morita A, Umezaki M, Greenhill A, Horwood P (2014) Detection of enteric viral and bacterial pathogens associated with paediatric diarrhoea in Goroka, Papua New Guinea. *International Journal of Infectious Diseases* 27:54-58.
- Soli KW, Kas M, Maure T, Umezaki M, Morita A, Siba PM, Greenhill AR, Horwood PF (2013) Evaluation of colorimetric detection methods for Shigella, Salmonella and Vibrio cholerae by loop-mediated isothermal amplification. *Diagnostic Microbiology and Infectious Disease* 77:321-323.
- Stickley A, Koyanagi A, Kawakami N, WHO World Mental Health Japan Survey Group. Childhood adversities and adult-onset chronic pain: results from the World Mental Health Survey, Japan. *European Journal of Pain* (in press).
- Stickley A, Koyanagi A, Kuposov R, Blatný M, Hrdlička M, Schwab-Stone M, Ruchkin V (2015) Correlates of weapon carrying in school among adolescents in three countries. *American Journal of Health Behavior* 39:99-108.
- Stickley A, Koyanagi A, Kuposov R, McKee M, Murphy A, Ruchkin V (2015) Binge drinking and eating problems in Russian adolescents. *Alcoholism: Clinical and Experimental Research* 39:540-547.
- Stickley A, Koyanagi A, Kuposov R, Schwab-Stone M, Ruchkin V (2014) Loneliness and health risk behaviours among Russian and U.S. adolescents: a cross-sectional study. *BMC Public Health* 14:366.
- Stickley A, Koyanagi A, Leinsalu M, Ferlander S, Sabawoon W, McKee M (2015) Loneliness and health in Eastern Europe: Findings from Moscow, Russia. *Public Health* 129:403-410.
- Stickley A, Koyanagi A, Richardson E, Roberts B, Balabanova D, McKee M (2013) Prevalence and factors associated with the use of alternative (folk) medicine practitioners in 8 countries of the former Soviet Union. *BMC Complementary and Alternative Medicine* 13:83.

- Stickley A, Koyanagi A, Roberts B, Leinsalu M, Goryakin Y, McKee M (2015) Smoking status, nicotine dependence and happiness in nine countries of the former Soviet Union. *Tobacco Control* 24:190-197.
- Stickley A, Koyanagi A, Roberts B, McKee M (2015) Urban-rural differences in psychological distress in nine countries of the former Soviet Union. *Journal of Affective Disorders* 178:142-148.
- Stickley A, Koyanagi A, Roberts B, Murphy A, Kizilova K, McKee M (2015) Male solitary drinking and hazardous alcohol use in nine countries of the former Soviet Union. *Drug and Alcohol Dependence* 150:105-111.
- Tasmin S, Furusawa H, Ahmad SA, Faruquee MH, Watanabe C (2015) Delta-aminolevulinic acid dehydratase (ALAD) polymorphism in lead exposed Bangladeshi children and its effect on urinary aminolevulinic acid (ALA). *Environmental Research* 136:318-323.
- Vengiau G, Umezaki M, Phuanukoonnon S, Siba P, Watanabe C. (2014) Associations of socioeconomic status with diet and physical activity in migrant Bougainvilleans in Port Moresby, Papua New Guinea. *Ecology of Food and Nutrition* 53:471-483.
- Yasumoto S, Jones A, and Shimizu C (2014) Longitudinal trends in equity of park accessibility in Yokohama, Japan: An investigation of the role of causal mechanisms. *Environment and Planning A* 6:682-699.
- Yazawa A, Inoue Y, Li D, Du J, Jin Y, Chen Y, Nishitani M, Watanabe C, Umezaki M (2014) Impact of Lifestyle Changes on Stress in a Modernizing Rural Population in Hainan Island, China. *American Journal of Human Biology* 26:36-42.
- Yoshida M, Honda A, Watanabe C, Satoh M, Yasutake A (2014) Neurobehavioral changes in response to alterations in gene expression profiles in the brains of mice exposed to low and high levels of mercury vapor during postnatal development. *Journal of Toxicological Sciences* 39:561-570.
- Yoshida M, Watanabe C, Honda A, Satoh M, Yasutake A (2013) Emergence of delayed behavioral effects in offspring mice exposed to low levels of mercury vapor during the lactation period. *Journal of Toxicological Science* 38:1-6.
- Yoshida N, Inaoka T, Sultana N, Ahmad SA, Mabuchi A, Shimizu H, Watanabe C.

Non-monotonic relationships between arsenic and selenium excretion and its implication on arsenic methylation pattern in a Bangladeshi population. *Environmental Research* (in press).

Zhou R, Li Y, Umezaki M, Ding Y, Jiang HW, Comber A, Fu H (2013) Association between physical activity and neighborhood environment among middle-age adults in Shanghai. *Journal of Environmental and Public Health*. Article ID: 239595. doi.org/10.1155/2013/239595.

梅崎昌裕, 石川正敏 (2014) 人口政策が日本の将来人口に与える影響の可視化. *民族衛生* 80: 6-11.

小西祥子 (2014) トンガ王国における高い出生率と海外移出率 : MIRAB 社会における人口転換の特徴. *民族衛生* 80: 48-53.

門司和彦, 中澤港, 河野泰之, 梅崎昌裕 (2014) ポスト人口転換社会における緩和策と適応策. *民族衛生* 80: 60-67.

□単行本 **Books and Book Chapters**

梅崎昌裕 (2014) 「人口問題」 国立民族学博物館 (編) 『世界民族百科事典』丸善出版. pp. 634-635.

小西祥子 (2014) 「トンガ人はなぜ太る?—人類生態学から考える—」 古田元夫 (監修), 東大 ASNET (編) 『アジアの環境研究入門』 東京大学出版会. pp. 1-20.

古澤華, 渡辺知保. (2014) 「トキシコキネティクスとトキシコダイナミクス」 熊谷嘉人, 姫野誠一郎, 渡辺知保 (編), 『毒性の科学—分子・細胞から人間集団まで』, 東京大学出版会, pp. 8-12.

安本晋也, 渡辺知保 (2014) 「都市の健康問題とエコヘルス」 門司和彦 安本晋也 渡辺知保 (編) 『別冊・医学のあゆみ』 医歯薬出版株式会社, pp. 50-55

□総説・資料・他 **Reviews, Reports, Essays etc.**

梅崎昌裕 (2015) 人はなぜ甘いものが好きなのか? 子供の科学 2015年2月号:14-15. (取

材協力)

梅崎昌裕, 中澤港 (2014) ポスト人口転換期におけるオプティマルな対処方策. 民族衛生 80: 4-5.

梅崎昌裕 (2013) パプアニューギニア高地人. 東京大学新聞 (2013年9月10日)

梅崎昌裕 (2013) パプアニューギニア高地人がサツマイモを食べて筋肉質になるのはなぜか. ヴェスタ, 92: 62-65.

梅崎昌裕 (2013) パプアニューギニア高地の食品成分表. ヴェスタ, 91: 66-69.

□学会発表 **Presentations in Scientific Meetings**

Begum M, Konishi S, Goto R, Watanabe C. Intestinal permeability and growth faltering of 6-24-month-old children in Chitral district, Pakistan. Nutrition Policy to Practice in Pakistan: Exploring the challenges & research opportunities, March 8-11, 2015, Islamabad.

Fillman T, Shimizu H, Parajuli RP, Watanabe C. Effects of cadmium exposure on salivary telomere length in adolescents in Terai, Nepal. The 54th Society of Toxicology Annual Meeting. March 26, 2015, San Diego, CA, USA. (poster)

Igai K, Tadokoro K, Baba J, Odani S, Naito Y, Natsuhara K, Tomitsuka E, Morita A, Umezaki M. Nitrogenase gene (nifH) expression in the gut microbiota of Papua New Guinea highlanders. The 18th International Congress on Nitrogen Fixation. October 15, 2013, Miyazaki, Japan.

Inoue Y, Umezaki M, Li D, Konishi S, Du J, Watanabe C. Transition to a market economy and C-reactive protein concentrations among rural communities in Hainan Island, China. Human Biology Association Meetings 2013. April 11, 2013, Knoxville, TN.

Inoue Y, Yazawa A, Li D, Du J, Jin Y, Chen Y, Watanabe C, Umezaki M. Epstein-Barr virus antibody titer and its association with the domain scores from the World Health Organization's Quality of Life Questionnaire. The 39th Annual Meeting of the Human Biology Association. April 10, 2014, Calgary, Canada.

- Inoue Y, Yazawa A, Stickley A, Li D, Watanabe C. Activity space expansion and its association with subjective quality of life in the initial stage of economic development in rural Hainan, China. The 40th Annual Meeting of the Human Biology Association. March 25, 2014, St. Louis, MO, USA. (poster)
- Kaneko S, Watanabe C, Moji K, Nishimoto F, Tiengkham P. Population health and global data sciences in Grene Ecohealth project. Japan Geoscience Union Meeting 2014. May 1, 2014, Yokohama, Japan.
- Konishi S, Stickley A, Shinsugi C, Yasumoto S, Watanabe C. Excess winter mortality in Japan: variation across age groups among the population aged 65 years old and above. The 26th Annual International Society for Environmental Epidemiology Conference. Aug 25, 2014, Seattle, WA, USA. (poster)
- Maure T, Soli KW, Kas M, Umezaki M, Morita A, Siba PM, Greenhill AG, Horwood PF. Aetiology of Paediatric Acute Watery Diarrhoea in Goroka, Papua New Guinea. PNG Medical Society 49th Annual Medical Symposium. September, 2013, Lae, Papua New Guinea.
- Morita A, Natsuhara K, Greenhill AR, Horwood PF, Odani S, Baba J, Naito Y, Tadokoro K, Vengiau G, Tomitsuka E, Igai K, Soli KW, Phuanukoonnon S, Siba PM, Umezaki M. Estimation of protein intake by a food frequency questionnaire in Papua New Guinean highlanders. The 38th Annual Meeting of the Human Biology Association. April 10, 2013, Knoxville, TN, USA.
- Ng CFS, Abdullah NA, Wan Mahiyuddin WR, Ueda K, Sahani M, Latif MT, Liew J, Abd Samad BH. Health burden of particulate air pollution and low carbon strategies at Iskandar Malaysia. 26th Annual Conference of the International Society for Environmental Epidemiology. August 25, 2014, Seattle, WA, USA. (poster)
- Ng CFS, Konishi S, Nishihata S, Shinsugi C, Ueda K, Takami A, Watanabe C. Particulate air pollution aggravates the incidence of pollinosis: implication on the severity grading of pollen count in Japan. 2nd International Joint Symposium for Atmospheric Brown Cloud (ABC) and Short-lived Climate Pollutant (SLCP). July 21, 2014, Tokyo, Japan. (poster)
- Ng CFS, Sahani M, Ueda K, Abdullah NA, Wan Mahiyuddin WR, Abd Samad BH, Latif MT, Watanabe C. Low carbon society: co-benefits to health. 14th Science Council of Asia International Conference. June 18, 2014, Kuala Lumpur, Malaysia.

- Rarau P, Vengiau G, Pulford J, Gouda H, Phuanukoonnon S, Hevau I, Riley I, Marks G, Umezaki M, Morita A, Bullen C, Scragg R. A survey of non-communicable diseases and associated risk factors in five sites across Papua New Guinea (The PNG NCD Survey): Study Description and Methodology. PNG Medical Society 49th Annual Medical Symposium. September, 2013, Lae, Papua New Guinea.
- Soli KW, Kas M, Maure T, Umezaki M, Morita A, Greenhill AR, Siba PM, Horwood PF. Detection of Enteric Pathogens Using Field-based Loop Mediated Isothermal Amplification (LAMP) in Papua New Guinea. PNG Medical Society 49th Annual Medical Symposium. September, 2013, Lae, Papua New Guinea.
- Umezaki M, Igai K, Tomitsuka E, Morita A, Naito Y, Natsuhara K, Tadokoro K, Odani S, Baba J. Adaptation to a Low-Protein Diet among Papua New Guinea Highlanders. The 18th International Congress on Nitrogen Fixation. October 15, 2013, Miyazaki, Japan.
- Vengiau G, Parapi I, Wawaga E, Hezeri P, Gouda H, Morita A, Siba P, Phuanukoonnon S, Umezaki M. Development of Papua New Guinea Physical Activity Questionnaire (PPAQ). PNG Medical Society 49th Annual Medical Symposium. September, 2013, Lae, Papua New Guinea.
- Watanabe C. Describing health impacts of urban heat at local scale. Health and wellbeing in the changing urban environment: a systems analysis approach. ICSU Xiamen expert workshop. December 8, 2014, Xiamen, China.
- Watanabe C. Grene Ecohealth - climate change, social change and human health. Japan Geoscience Union Meeting 2013. May 20, 2013, Chiba, Japan. [invited]
- Watanabe C. Health in Green Growth. In The role of universities in Green Growth. "Health in Green Growth". 16th BESETOHA university presidents" forum. November 12, 2014, Hanoi, Vietnam.
- Watanabe C. Health issues in upper Citarum: obesity and (agro)chemicals. AWCI-Session, The 7th GEOSS Asia-Pacific Symposium. May 27, 2014, Tokyo, Japan.
- Watanabe C. Non-monotonic relationships between arsenic and selenium excretion in a Bangladeshi population: implications on arsenic toxicity. NIES Arsenic Workshop 2013 - Seeking ways to reduce the arsenic health hazards from the toxicological

standpoint. December 10, 2013, Tsukuba, Japan. [invited]

Watanabe C. Relationship between Hg and Se levels in Taiji inhabitants. International Conference on Mercury as a Global Pollutant. August 2, 2013, Edinburgh, UK. [invited]

Watanabe C. Symposium 4 Human activity, climate change and emerging health issues. 4th International Conference for Sustainability Science in Asia (session organizer), February 7, 2013, Canberra, Australia. (A joint meeting with 19th International Conference for Society of Human Ecology)

Watanabe C. Thinking health in various contexts. 6th International Conference for Sustainability Science. September 16, 2013, Marseille, France. [invited]

Watanabe C. Use of chemicals: optimizing an intrinsic conflict? Intersection of Sustainability and health. IARU Sustainability Science Congress “Global Challenges: Achieving Sustainability”. October 22, 2014, Copenhagen, Denmark.

Watanabe C. “Importance of health for water sustainability”. In Sustainable Management of Urban Water Environment in Asia. 5th International Conference on Sustainability Science. January 23, 2015, Tokyo, Japan.

Yasumoto S, Jones AP, Shimizu C. Longitudinal trends in equity of park accessibility in Japan: An investigation of the role of causal mechanisms. International Geographical Union (IGU) Regional Conference. August 6, 2013, Kyoto, Japan.

Yasumoto S, Kabir AF, Oyoshi K, Watanabe C. Examining Health Impact of cold weather using remotely sensed data: A case study of Dhaka, Bangladesh. EcoHealth 2014 Conference. August 14, 2014, Montréal, Canada. (poster)

Yasumoto S, Watanabe C, Hashizume M, Oyoshi K, Faruque ASG, Dewan A. The use of remotely sensed land surface temperature data for testing relationship between diarrhea prevalence and hot environment. The 6th Asian Heads of Research Councils (ASIAHORCs) Joint Symposium. November 27, 2014, Bangkok, Thailand.

Yasumoto S, Watanabe C, Hashizume M, Oyoshi K, Faruque ASG, Dewan A. Remote sensing techniques for evaluating effect of heat island phenomena on diarrhea

incidence in Dhaka, Bangladesh. The 21st Session of the Asia-Pacific Regional Space Agency Forum (APRSAF-21). December 3, 2014, Tokyo, Japan.

Yasumoto S, Watanabe C, Jones AP, Oyoshi K, Fukuda T, Kanasugi H, Sekimoto Y, Shibasaki R. Heat Exposure Assessment Based on Individual's Daily Mobility Data in Dhaka, Bangladesh. International Society for Environmental Epidemiology (ISEE) conference 2014. August 25, 2014, Seattle, WA, USA.

Yazawa A, Inoue Y, Li D, Du J, Jin Y, Chen Y, Nishitani M, Watanabe C, Umezaki M. Impact of lifestyle changes on stress in a modernizing rural population in Hainan Island, China: the application of investment tendency index. 39th Annual Meeting of the Human Biology Association. April 9, 2014, Calgary, Canada. (poster)

Yazawa A, Inoue Y, Stickley A, Li D, Watanabe C. The interaction of season of birth on the association between QOL and inflammation in China: A Cohort effect? 40th Annual Meeting of the Human Biology Association. March 26, 2015, St. Louis, MO, USA.

井上雄太, 梅崎昌裕, 渡辺知保. 長野県農山村における高齢者の対処行動と医療多元論. 第78回日本民族衛生学会総会. 2013年11月15日. 佐賀.

梅崎昌裕 人類生態学はフィールド調査をどう記録するか. 第79回日本民族衛生学会シンポジウム「公衆衛生活動の記録と報告の方法論」 2014年11月21日, 筑波.

梅崎昌裕. 低タンパク食地域における腸内細菌の栄養機能の解明. 第32回内分沁退社学サマーセミナー シンポジウム「生活習慣病を解く」. 2014年7月11日, 河口湖. 梅崎昌裕, 須田 互, 猪飼 桂, 森田 彩子, 冨塚 江利子, 夏原 和美, 田所 聖志, 馬場 淳, 小谷 真吾, 内藤 裕一, Paul Horwood, Andrew Greenhill, Peter Siba, 服部 正平. パプアニューギニア高地人の低タンパク適応と腸内細菌. 第37回日本分子生物学会年会, 2014年11月27日, 横浜.

梅崎昌裕, 須田互, 猪飼桂, 森田彩子, 小谷真吾, 夏原和美, 冨塚江利子, 田所聖志, 馬場淳, 内藤裕一, 服部正平. 腸内細菌とタンパク栄養の関連にかかわるいくつかの知見. 第78回日本民族衛生学会総会. 2013年11月15日. 佐賀.

梅崎昌裕, 冨塚江利子, 猪飼桂, 森田彩子, 田所聖志, 馬場淳, 内藤裕一, 小谷真吾, 夏原和美. 腸内細菌に着目したパプアニューギニア高地人の低タンパク適応研究: 研究の枠組み. 第78回日本民族衛生学会総会. 2013年11月15日. 佐賀.

- 大塚柳太郎, 小西祥子. 自然出生力集団における妊孕力. 日本人口学会第 65 回大会, 2013 年 6 月 2 日, 札幌.
- 小坂理子. 肥満のお母さんと低栄養の子どもたち:インドネシアの都市部における栄養生態学. 第 20 回生態人類学会. 2015 年 3 月 26 日. 秋田.
- 小西祥子. 年齢と妊孕力 (Age and fecundity). 日本人口学会第 65 回大会, 2013 年 6 月 2 日, 札幌.
- 小西祥子. 不妊と人口 (Infertility and population) (テーマセッション「不妊と人口」趣旨説明). 日本人口学会第 65 回大会, 2013 年 6 月 2 日, 札幌.
- 小西祥子. 妊孕力と人口 (テーマセッション「妊孕力と人口」趣旨説明). 日本人口学会第 66 回大会, 2014 年 6 月 15 日, 東京.
- 小西祥子, Andrew Stickley, 安本晋也, 新杉知沙, 渡辺知保. 日本における死亡率の季節変動の地域差. 第 78 回日本民族衛生学会総会, 2013 年 11 月 16 日, 佐賀.
- 小西祥子, 玉置えみ. 日本の既婚および未婚女性の妊娠企図と避妊行動. 第 85 回日本衛生学会学術総会, 2015 年 3 月 28 日, 和歌山.
- 小西祥子, 玉置えみ. 日本における Current-duration approach の適用. 日本人口学会第 66 回大会, 2014 年 6 月 15 日, 東京.
- 小西祥子, 西浜柚季子, 飯田彩花, 吉永淳, 今井秀樹. 20-22 歳の日本人女性における血清中抗ミューラー管ホルモン (AMH) 濃度と月経痛の関連. 第 84 回日本衛生学会学術総会, 2014 年 5 月 26 日, 岡山.
- 小西祥子, Chris Fook Sheng Ng, Andrew Stickley, 西端慎一, 新杉知沙, 上田佳代, 高見昭憲, 渡辺知保. 微小粒子状物質は花粉飛散数と花粉症受診患者数の関連を修飾する. 第 84 回日本衛生学会学術総会, 2014 年 5 月 26 日, 岡山.
- 佐方奏夜子, 小西祥子, Chris Fook Sheng Ng, 岸川禮子, 新杉知沙, 梅崎昌裕, 渡辺知保. 福岡市における黄砂および浮遊粒子状物質と花粉症受診者数との関連. 第 85 回日本衛生学会学術総会, 2015 年 3 月 27 日, 和歌山.
- 玉置えみ, 小西祥子. 生活習慣と月経不順の関連: インターネット調査の予備分析から. 日本人口学会第 66 回大会, 2014 年 6 月 15 日, 東京.
- 冨塚江利子, 猪飼桂, 須田瓦, 田所聖志, 馬場淳, 内藤裕一, 森田彩子, 小谷真吾, 夏原

和美, Paul Horwood, Andrew Greenhill, Peter Siba, 森田英利, 服部正平, 梅崎昌裕.
腸内細菌メタボローム解析およびヒト腸管を模した細胞培養系による低タンパク適応
の機序の解明. 第 37 回日本分子生物学会年会, 2014 年 11 月 27 日, 横浜.

冨塚江利子, 須田互, 猪飼桂, 田所聖志, 馬場淳, 内藤裕一, 森田彩子, 小谷真吾, 夏原和美,
服部正平, 梅崎昌裕. 腸内細菌代謝物の宿主栄養に対する効果 第 78 回日本民族衛生
学会総会. 2013 年 11 月 15 日. 佐賀.

夏原和美, 森田彩子, 田所聖志, 馬場淳, 内藤裕一, 小谷真吾, 梅崎昌裕. パプアニューギ
ニア高地人の体格指数の評価. 第 78 回日本民族衛生学会総会. 2013 年 11 月 15 日.
佐賀.

西嶋傑, 大島健志朗, 金錫元, 飯岡恵里香, 大森恵美, 木内美沙, 黒柳寛実, 小宮恵子,
須田互, 梅崎昌裕, 森田英利, 服部正平. 日本人と外国人間における腸内マイクロバイ
オームの大規模比較解析. 第 8 回ゲノム微生物学会. 2013 年 3 月 7 日, 東京.

西浜柚季子, 飴田玲伽, 吉永淳, 小西祥子, 中島大介, 米山美幸, 白石寛明, 今井秀樹.
看護女子大学生における尿中パラベン類濃度の個人内・個人間変動. 第 85 回日本衛生
学会学術総会, 2015 年 3 月 27 日, 和歌山.

西浜柚季子, 飯田彩花, 小西祥子, 今井秀樹, 吉永淳. 女性生殖能力の影響指標としての月
経周期. 第 16 回環境ホルモン学会研究発表会. 2013 年 12 月 12-13 日, 東京.

西浜柚季子, 飯田彩花, 吉永淳, 今井秀樹, 小西祥子, 中島大介, 米山美幸, 白石寛明.
女子大学生のパラベン類曝露と月経周期. 環境ホルモン学会第 17 回研究発表会, 2014
年 12 月 10 日, 東京. (ポスター)

西浜柚季子, 飯田彩花, 吉永淳, 今井秀樹, 小西祥子, 中島大介, 米山美幸, 白石寛明. パ
ラベン類曝露による月経周期への影響. 日本人口学会第 66 回大会, 2014 年 6 月 15 日,
東京.

濱松由莉, 井上陽介, 梅崎昌裕. 東日本大震災が日本人の再生産行動・出生性比に与えた
影響 第 65 回日本人口学会 2013 年 6 月 1 日, 札幌.

濱松由莉, 梅崎昌裕, 渡辺知保. 東日本大震災による人口移動が日本の人口分布に与える
影響. 第 78 回日本民族衛生学会総会. 2013 年 11 月 15 日. 佐賀.

古澤華, モー クノイ・デイジー, ジャイカンラヤ・チャート, タントゥラ カルナパ・ク
ライチャット, 渡辺 知保. チャオブラヤ川 流域の大洪水が住民に 与えたインパクト

と被災世帯の水質変動. 第 85 回日本衛生学会総会, 2015 年 3 月 28 日, 和歌山.

森田彩子, 富塚江利子, 内藤裕一, 夏原和美, 田所聖志, 馬場淳, 小谷真吾, 梅崎昌裕. 食物摂取頻度調査票をもちいたタンパク摂取量の評価. 第 78 回日本民族衛生学会総会. 2013 年 11 月 15 日. 佐賀.

安本晋也, 渡辺知保, 橋爪真弘, 大吉慶, Faruque ASG, Dewan A. リモートセンシングを用いたヒートアイランド現象の下痢症発生に与える影響分析, 日本衛生学会 第 85 回 学術総会, 2015 年 3 月 28 日, 和歌山. 口頭発表.

安本晋也, 渡辺知保. 地域デザイン検討に健康リスク評価は有効か, 日本環境共生学会 第 17 回学術大会, 2014 年 9 月 28 日, 徳島. 口頭発表.

安本晋也, Kabir AF, 渡辺知保, 大吉慶. リモートセンシング技術を用いた寒冷曝露の健康影響研究: ダッカにおける事例, 日本衛生学会 第 84 回 学術総会, 2014 年 5 月 26 日, 岡山. 口頭発表.

安本晋也, 渡辺知保, Jones AP, 大吉慶, 金杉洋, 関本義秀, 柴崎亮介. 人々の移動パターンを考慮した暑熱曝露の推定研究 —ダッカにおける事例—, 日本民族衛生学会 第 78 回総会, 2013 年 11 月 16, 佐賀. 口頭発表.

安本晋也, 渡辺知保, Jones AP, 大吉慶, 金杉洋, 関本義秀, 柴崎亮介. アンケート調査による人々の移動を考慮した暑熱曝露量の推定研究, 日本環境共生学会 第 16 回学術大会, 2013 年 9 月 29 日, 名古屋. 口頭発表.

□受賞 Awards

Begum, Mumtaz Best oral presentation

Begum M, Konishi S, Goto R, Watanabe C. Intestinal permeability and growth faltering of 6-24-month-old children in Chitral district, Pakistan. Nutrition Policy to Practice in Pakistan: Exploring the challenges & research opportunities, March 8-11, 2015, Islamabad.

Ng, Chris Fook Sheng Paper of the Year 2014 Japan Epidemiological Society

Ng CFS, Ueda K, Takeuchi A, Nitta H, Konishi S, Bagrowicz R, Watanabe C, Takami A (2014) Sociogeographic variation in the effects of heat and cold on daily mortality in Japan. *Journal of Epidemiology* 24: 15-24.

小西祥子 若手優秀演題賞 第84回日本衛生学会学術総会「20-22歳の日本人女性における血清中抗ミューラー管ホルモン（AMH）濃度と月経痛の関連」2014年5月26日

小西祥子 Best Teachers Award 2013年度 東京大学医学部

矢澤亜季 Wiley's News Round-Up, American Journal of Human Biology 2014 26(1): 36-42. "Impact of Lifestyle Changes on Stress in a Modernizing Rural Population in Hainan Island, China."

矢澤亜季 International Travel Award, 40th Annual Meeting Human Biology Association, 2015 (Oral), "The interaction of season of birth on the association between QOL and inflammation in China: A Cohort effect?"

競争的資金の獲得 Research Funds (代表および分担)

(注) 助成金額は一部概算

□政府系競争資金 National Research Funds

2010-2013 年度 最先端・次世代研究開発支援プログラム (内閣府) 「パプアニューギニア高地人がサツマイモを食べて筋肉質になるのはなぜか」 103,000,000 円 (代表: 梅崎昌裕)

2010-2014 年度 文部科学省 気候変動適応研究推進プログラム「大気環境物質のためのシームレス同化システムの構築とその応用 (SALSA)」9,500,000 円 (代表: 中島映至 <東京大学>, 分担: 渡辺知保)

2011-2015 年度 文部科学省 環境技術等研究開発推進事業費補助金 (グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス (GRENE) 環境情報分野) 「気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成」165,000,000 円 (代表: 渡辺知保)

2011-2014 年度 科学研究費補助金・若手研究 (B) 4,160,000 円 「喫煙が日本人女性の再生産機能の老化に及ぼす影響」 (代表: 小西祥子)

2011-2013 年度 科学研究費補助金・基盤研究 (B) 「無機砒素毒性発現 における性差の機序と毒性学的意義の解明」14,560,000 円 (代表: 渡辺知保, 連携: 清水華)

2012-2014 年度 科学研究費補助金・基盤研究 (C) 「発育・発達期における低濃度複合水銀曝露による神経行動毒性に対する遺伝的要因の影響」4,100,000 円 (総額) (代表: 吉田稔<八戸大学>, 連携: 渡辺知保, 分担: 清水華)

2013-2015 年度 特別研究員奨励費 「中国海南島少数民族コミュニティーにおける都市化による健康影響の多様性」3,400,000 円 (代表: 矢澤 亜季)

2014-2017 年度 科学研究費補助金・基盤 (C) 「パプアニューギニアにおける2つの天然資源開発地における社会変化の類似点と相違点」700,000 円 (分担: 梅崎昌裕, 代表: 田所聖志)

2014-2016 年度 科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究「遺伝的多様性を高める ヒトの配偶者選択と繁殖行動に関する行動遺伝学的解析」3,640,000 円 (代表: 清水華)

2014-2016 年度 科学研究費補助金・若手研究 (B) 「越境する人口集団の持続的健康—中国海南省文昌市大宝村を中心とした拡がり—」2,210,000 円 (代表: 井上陽介)

□その他の研究助成

2012-2013 年度 ファイザーヘルスリサーチ振興財団国際共同研究助成 3,000,000 円
「ポスト人口転換期におけるオプティマルナ対処方策の研究」(代表:梅崎昌裕)

2014-2015 年度 武田科学振興財団ビジョナリーリサーチ助成 2,000,000 円 「人類の低
タンパク適応に腸内細菌が果たす役割」(代表:梅崎昌裕)

2014-2015 年度 タニタ健康体重基金 500,000 円 「肥満に関連する腸内細菌種リストの
作成」(代表:梅崎昌裕)

2014-2016 年 安倍フェローシップ 98,747 米ドル 「低出生力に関わる生物・行動学的
要因の日米比較」(代表:小西祥子)

2014 年度 東京大学医学部 Best Teachers Award 500,000 円 (代表:小西祥子)

2014 年度 NPO 法人エコヘルス研究会 こもいせ調査研究補助金「花粉症と死亡リスクの
関連」400,000 円 (代表:小西祥子, 分担:渡辺知保)

2014 年 4 月-2015 年 8 月 嗜好品文化研究会研究奨励事業(研究助成)「インドネシア・西
ジャワの食文化におけるテンペの嗜好品性の検討」600,000 円 (代表:小坂理子)

2015 年 総合健康推進財団一般研奨励助成「少子高齢化による買い物環境と食生活の変容」
700,000 円 (代表:梅崎昌裕)

人類生態学研究会 Meetings on Human Ecology

第 27 回人類生態学研究会 (2013 年 6 月 29 日) 於 教育研究棟第 5 セミナー室

小坂理子 (人類生態学教室)

豪雪地帯における身体活動と雁木通りの役割に関する調査

冨塚江利子 (人類生態学教室)

パプアニューギニア高地人における腸内細菌代謝物の宿主栄養機能に対する効果

姫野誠一郎 (徳島文理大学薬学部)

バングラデシュとカンボジアでのヒ素汚染に関する調査

米元純三 (国立環境研究所・子どもの健康と環境に関する全国調査コアセンター)

子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査) の概要と進捗状況

第 28 回人類生態学研究会 (2014 年 6 月 21 日) 於 教育研究棟第 5 セミナー室

矢澤亜希 (人類生態学教室)

中国海南島農村コミュニティにおける生活様式の変容が心理ストレスに及ぼす影響

安本晋也 (人類生態学教室)

健康科学研究の空間的側面

卯田宗平 (東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク)

人間と動物の関係論再考-中国の鵜飼い漁師がカワウを飼い慣らす技術を手がかりに-

遠山千春 (東京大学医学系研究科疾患生命工学センター健康環境医工学部門)

齧歯類の高次脳機能異常を検出するための新たな行動試験法

教室員一覽 Department Members (2013-2014 年度在籍者)

名誉教授

鈴木継美 (2008 年5 月ご逝去)
大塚柳太郎

教授

渡辺知保

准教授

梅崎昌裕

助教

古澤華
小西祥子

特任講師 (グローバル 30)

Stickley, Andrew -2014.3

特任助教 (最先端・次世代)

富塚江利子 -2014.3
森田彩子 -2013.7

特任助教 (グローバル 30)

田所聖志 2013.8

特任助教 (MEXT GRENE プロジェクト)

安本晋也 2013.4-

特任助教 (UEHAS)

井上陽介 2013.5-

特任研究員／客員研究員／特別研究学生

Ng, Chris Fook Sheng 2014.4-
Parajuli, Rajendra Prasad 2013.4-2014.3
吉澤剛士

猪飼 桂 -2014.6

サポートスタッフ

高橋絵実 2009.11-
大和田昌代 [最先端・次世代] -2014.9
太田玲子 [最先端・次世代] -2014.3
新杉知沙 2013.6-2014.6

博士課程大学院生

Tasmin, Saira
小坂理子
矢澤亜季

修士課程大学院生

Begum, Mumtaz
Ferdosi, Kabir Ayesha
Fillman, Jennifer Tokiko
Jonduo, Marinjho
Ser, Ping Han
井上雄太
陳 少明
濱松由莉
松野佑真

学部学生（卒業論文）

佐方奏夜子
高橋優香子
三本恭也
山下結花

非常勤講師

佐々木誠一	茨城県立医療大学
中澤 港	神戸大学大学院保健学研究科
吉田 稔	八戸学院大学人間健康学部
新田裕史	国立環境研究所
橋爪真弘	長崎大学熱帯医学研究所

末吉秀二
門司和彦
姫野誠一郎
稲岡 司
山越 言
金子隆一

吉備国際大学社会学部
長崎大学大学院国際健康開発研究科
徳島文理大学薬学部
佐賀大学農学部
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
国立社会保障・人口問題研究所